

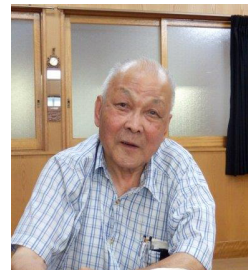
松波むかし語り ここに住み続けて その57

今回のお客様

町会で長く環境衛生部と区長をつとめた

と さ ふじしろ
戸佐 藤代 さん 85歳 2丁目

“当時の環境衛生部では苦勞もりましたが、
名物男がそろってましたね！”



松波町会が誕生したのが昭和31年でしたから、戸佐さんが松波に越してきた昭和29年3月は、それより少し前になります。当時総武線は高架でなく土手の上を走っていて、飛び込み自殺もあった時分で、線路際の戸佐さんの家からは、京成の千葉海岸駅(現在は西登戸)が見渡せ、夏は家から海水パンツをはいたまま海までよく歩いたといひます。

戸佐さんは昭和5年、東京市深川区(現東京都江東区)猿江、今の錦糸町駅近くで生まれました。いまでも、電車が錦糸町駅に到着する手前左手に都バスの車庫(上は都営住宅)がありますが、そこが元都電の錦糸町車庫で、そこに戸佐さんが通った小学校が、またいまの両国の江戸東京博物館の裏に中学校があり、両国国技館は元青果市場でセリのおじさんからみかんやリンゴをもらうなど、いわば両国や深川の一帯が戸佐さんの縄張りでした。

時代は太平洋戦争の末期、戸佐さんも中学からプロペラ工場に勤労働員され、3月10日の東京大空襲では、横川へ飛び込んでなんとか助かりましたが家は丸焼け、そこでお父さんの故郷、北海道茅部郡尾札部(おさかべ)村(現在は函館市に合併)に疎開しました。その後、千歳空港の近くの南恵庭に5町歩の原野をもらって開拓に入ったり、できたばかりの警察予備隊、つまりいまの自衛隊に1年入隊したりしたあと、10町歩の土地を売って現在の松波2丁目に越して来ました。なぜ松波へ? 「親父が錦糸町の工場に勤めていたので、西千葉駅から電車で通うのが便利だったんです」。その後、戸佐さんも平井の製缶工場に職を得ます。「松波の土地は坪3500円、今と比べると夢みたいな話だけれど、日給が300円、残業しても月給は1万円に届かなかった時代だからね」。当時、いまの京葉銀行、長谷川金物店から西千葉に向かう通りは、建具屋や酒屋・洋品屋・八百屋・魚屋と商店が軒を連ねていました。「通りにはずっと桜の並木が続いててね、それを移植したのがいまの千葉公園の桜ですよ」。戸佐さんのお話は、数字とかつての景色がポンポンと飛び出します。



平成12年 理事研修会 県漁業事情視察

戸佐さんは平成13年から22年まで、ながく町会の理事や区長を務めました。「亡くなった能瀬文蔵さんに誘われたんですが、当時の環境衛生部は能瀬さんをはじめ真下潤一さん、大塚善保さん(ともに故人)、それに川島次郎吉さんといった名物男がそろってました。とくに能瀬さんは、花の植栽なんかやって植え方が気に入らないと、ぜんぶ引っこ抜かれたりしましたね(笑)」。「ちょうどごみのネット張りが始まった時分で、ようやく市役所が年に4枚支給してくれたのでは足ら

なくて、ホームセンターに買いに行ったものですよ」。

余談ですが、「藤代さん」とは変わった名前ですね? 「私は本当は次男で、私の前に2人、親父は死産などで子どもを亡くしているんですよ。それで姓名判断をしてもらったら、『女の子か男の子かわからないような名前を付ければ育つ』と言われたそうです」。そのお父さんは、かつて町会が「親子三代まつり」に参加した時分、青森のねぶた祭りの衣装をわざわざ買ってきて参加したそうで、いまでも町会廊下に掲げた写真で笑っています。(竹)